

平成 25 年 2 月 17 日 (日) 施行

第 170 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 原価計算基準 第二章 七 実際原価の計算 参照
2. 原価計算基準 第二章 二二 等級別総合原価計算 参照
3. 原価計算基準 第二章 二三 組別総合原価計算 参照

第 2 問

1. 賃金給料 ¥1,262,000 と経費 ¥915,000 を以下に振り替える。
 ⇒ 第 1 工程仕掛品 ¥1,132,000
 ⇒ 第 2 工程仕掛品 ¥1,045,000
2. 素材 ¥1,548,000 の素材を消費し、A 組仕掛品、B 組仕掛品、組間接費に振り替える。
3. 返品された製品の原価は $80 \text{ 個} \times @ ¥1,500 = ¥120,000$
 36% 増しで販売しているので売価は $¥120,000 \times 1.36 = ¥163,200$
 ¥163,200 の掛売上と、売上原価 ¥120,000 の計上を取り消す。
4. ¥273,000 仕掛品のうち ¥86,000 は仕損品として評価され、残額は仕損費として処理する。
5. 予算額 ¥3,170,000 - 実際発生額 ¥3,194,000 = 予算差異 △ ¥24,000 (不利差異)
6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	工	場	845,000	(貸)	当	座	預	金	169,000
							買	掛	金	676,000
(工場)	(借)	素	材	652,000	(貸)	本		社		845,000
			工場消耗品	193,000						

第 3 問

当月の販売数量は 1,200 個なので、売上高は $@ ¥3,000 \times 1,200 \text{ 個} = ¥3,600,000$

当月 1,500 個製造し、製造原価は変動費 (直接材料費 + 変動加工費) が ¥1,575,000

このうち 1,200 個が販売されたので変動売上原価は

$$¥1,575,000 \times (1,200 \text{ 個} / 1,500 \text{ 個}) = ¥1,260,000$$

よって変動製造マージンは

$$\text{売上高} - \text{変動売上原価} = ¥3,600,000 - ¥1,260,000 = ¥2,340,000$$

また、変動販売費は $@ ¥330 \times 1,200 \text{ 個} = ¥396,000$ なので限界利益は

$$\text{製造マージン} - \text{変動販売費} = ¥2,340,000 - ¥396,000 = ¥1,944,000$$

固定費は、

$$\text{固定加工費} + \text{固定販売費} + \text{一般管理費} = ¥772,000 + ¥196,000 + ¥436,000 = ¥1,404,000$$

以上より営業利益は

$$\text{限界利益} - \text{固定費} = ¥1,944,000 - ¥1,404,000 = ¥540,000$$

製品 1 個当たりの変動売上原価は $\text{¥}1,260,000 / 1,200 \text{ 個} = @ \text{¥}1,050$

また、変動販売費が $@ \text{¥}330$ なので製品 1 個当たりの変動費は $@ \text{¥}1,050 + @ \text{¥}330 = @ \text{¥}1,380$

固定費は $\text{¥}1,404,000$ である。

販売数量を x とすると、売上高は $3,000x$ 、営業費用は $1,380x + 1,404,000$ と表すことができる。

営業利益 $\text{¥}783,000$ の場合は以下の式が成り立つ。

$$3,000x - (1,380x + 1,404,000) = \text{¥}783,000$$

これを x について解くと

$$x = 1,350$$

第 4 問

1. 素材と工場消耗品の購入

(借) 素 材	1,473,800	(貸) 買 掛 金	1,623,100
工場消耗品	149,300		

2. 素材の消費

予定価格は $\text{¥}780/\text{kg}$ より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#201	#202	#203	#202-R1	間接材料費	合 計
$\text{¥}507,000$	$\text{¥}577,200$	$\text{¥}202,800$	$\text{¥}70,200$	$\text{¥}132,600$	$\text{¥}1,489,800$

→ 原価計算表「直接材料費」

(借) 仕 掛 品	1,357,200	(貸) 素 材	1,489,800
製造間接費	132,600		

3. 材料消費価格差異の計上

素材の実際消費量は $\text{¥}1,493,500$ より、材料消費価格差異は

$$\text{¥}1,489,800 - \text{¥}1,493,500 = \triangle \text{¥}3,700 \text{ (不利差異)}$$

(借) 材料消費価格差異	3,700	(貸) 素 材	3,700
--------------	-------	---------	-------

4. 棚卸減耗費

		素 材			
月初棚卸高	$\text{¥}253,400$	$\text{¥}1,357,200$		直接材料費	
			$\text{¥}132,600$	間接材料費	
			$\text{¥}3,700$	消費価格差異	
当月仕入	$\text{¥}1,473,800$		$\text{¥}4,500$	棚卸減耗	
			$\text{¥}229,200$	月末棚卸高	

月末実地棚卸高が $\text{¥}229,200$ なので、貸借差額より棚卸減耗費は $\text{¥}4,500$ → 製造間接費へ

(借) 製造間接費	4,500	(貸) 素 材	4,500
-----------	-------	---------	-------

5. 工場消耗品の振替え

		工場消耗品		
前月繰越	¥36,500	¥153,600	→	製造間接費
当月仕入	¥149,300			
		¥32,200		次月繰越

期末実地棚卸高は¥32,200より、実際消費高は

$$¥36,500 + ¥149,300 - ¥32,200 = ¥153,600$$

(借) 製造間接費	153,600	(貸) 工場消耗品	153,600
-----------	---------	-----------	---------

6. 給与の支払

(借) 賃金給料	1,281,300	(貸) 当座預金	1,153,300
		預り金	128,000

7. 直接工の賃金消費

予定賃率は¥850/時間より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#201	#202	#203	#202-R1	間接労務費	合計
¥391,000	¥348,500	¥144,500	¥42,500	¥238,000	¥1,164,500

→ 原価計算表「直接労務費」

(借) 仕掛品	926,500	(貸) 賃金給料	1,164,500
製造間接費	238,000		

8. 賃率差異の計上

		賃金給料 (直接工)		
当月支払高	¥1,158,700	¥274,200	月初未払高	
		¥926,500	直接作業分	
		¥238,000	間接作業分	
月末未払高	¥282,400	¥2,400	賃率差異	

月末未払賃金高が¥282,400なので、実際消費高は

$$¥1,158,700 + ¥282,400 - ¥274,200 = ¥1,166,900$$

よって賃率差異は

$$¥1,164,500 - ¥1,166,900 = \triangle ¥2,400 \text{ (不利差異)}$$

(借) 賃率差異	2,400	(貸) 賃金給料	2,400
----------	-------	----------	-------

9. 間接工の賃金消費

		賃金給料 (間接工)		
当月支払高	¥122,600	¥24,500	月初未払高	
月末未払高	¥27,400	¥125,500	実際消費高	

取引6より、給与総支給額¥1,281,300のうち直接工分が¥1,158,700なので、間接工分は

$$¥1,281,300 - ¥1,158,700 = ¥122,600$$

よって実際消費高は

$$¥122,600 + ¥27,400 - ¥24,500 = ¥125,500$$

(借) 製造間接費	125,500	(貸) 賃金給料	125,500
-----------	---------	----------	---------

10. 製造部門費の製造指図書への配賦

予定配賦率は第1製造部門費¥560、第2製造部門費¥620より、機械運転時間をもとに配賦

	#201	#202	#203	#202-R1	合計
第1製造部門費	¥128,800	¥190,400	¥140,000	¥16,800	¥476,000
第2製造部門費	¥167,400	¥198,400	¥142,600	¥24,800	¥533,200

→ 原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」

(借) 仕掛品	476,000	(貸) 第1製造部門費	476,000
(借) 仕掛品	533,200	(貸) 第2製造部門費	533,200

11. 製造経費の支払い

(借) 製造間接費	194,600	(貸) 当座預金	194,600
-----------	---------	----------	---------

12. 減価償却費の製造間接費への計上

(借) 製造間接費	165,000	(貸) 減価償却累計額	165,000
-----------	---------	-------------	---------

13. 製造間接費の各原価部門への振り替え

(借) 第1製造部門費	238,200	(貸) 製造間接費	1,013,800
第2製造部門費	255,600		
A 補助部門費	240,000		
B 補助部門費	280,000		

14. 補助部門の製造部門への配賦

問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A 補助部門費	¥132,000	¥108,000
B 補助部門費	¥112,000	¥168,000

(借) 第1製造部門費	132,000	(貸) A 補助部門費	240,000
第2製造部門費	108,000		
(借) 第1製造部門費	112,000	(貸) B 補助部門費	280,000
第2製造部門費	168,000		

15. 作業くず評価額の控除

(借) 作業くず	2,800	(貸) 第1製造部門費	2,800
----------	-------	-------------	-------

16. 製造部門費配賦際の計上

第1製造部門費の予定配賦額は¥476,000、実際発生額は¥479,400なので、部門費配賦差異は
 $¥476,000 - ¥479,400 = \Delta ¥3,400$ (不利差異)

(借) 製造部門費配賦差異	3,400	(貸) 第1製造部門費	3,400
---------------	-------	-------------	-------

第2製造部門費の予定配賦額は¥533,200、実際発生額は¥531,600なので、部門費配賦差異は
 $¥533,200 - ¥531,600 = ¥1,600$ (有利差異)

(借) 第2製造部門費	1,600	(貸) 製造部門費配賦差異	1,600
-------------	-------	---------------	-------

摘要	合計	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門費合計	1,013,800	238,200	255,600	240,000	280,000
A補助部門費	240,000	132,000	108,000		
B補助部門費	280,000	112,000	168,000		
作業くず評価額	2,800	2,800	—		
実際発生額	1,011,000	479,400	531,600		
予定配賦額	1,009,200	476,000	533,200		
部門費差異	(-) 1,800	(-) 3,400	(+) 1,600		

17. 補修指図書#202-R1→製造指図書#202への賦課

原価計算表より、補修指図書#202-R1は¥154,300

(借) 仕掛品	154,300	(貸) 仕掛品	154,300
---------	---------	---------	---------

→原価計算表「補修費」

製造指図書#201と#202が完成したので

$¥1,701,100 + ¥1,789,400 = ¥3,490,500$ を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製品	3,490,500	(貸) 仕掛品	3,490,500
--------	-----------	---------	-----------